

令和元年6月7日大雨における 警戒レベル4発令の避難意識と行動の調査 ～西日本豪雨からおよそ1年後の比較検証～

防災マーケティング研究チーム調査結果

令和元(2019)年7月1日

県立広島大学
防災社会システム・デザイン・プロジェクト研究センター

アンケート調査概要

県立広島大学 防災社会システム・デザインプロジェクト研究センターは、株式会社サーベイリサーチセンターの協力を得て、令和元年6月7日大雨（以下、「6月7日大雨」）における警戒レベル4発令に関する避難意識と行動の調査を行いました。

当該調査は、インターネットモニターに対して、令和元年6月11日から12日にかけて、広島県、岡山県、愛媛県 3 県の成人男女約10,000人から回答を得たものです。

一部の設問は、平成30年8月に本研究チームが実施した調査と同じ内容としており、本報告書内で比較分析を行っています。なお、本報告書では広島県の集計データのみ取り扱っています。

調査期間	調査方法	回答数	有効回答数
令和元年6月11日(火)～ 令和元年6月12日(水)	インターネット調査	10,000	9,828
設問項目			
(回答者属性) 性別	Q 1) 避難しない理由		
(回答者属性) 年齢	Q 2) H30.7 豪雨以前での災害による 避難の有無		
SC 1) 住所			
SC 2) 日頃からの備え	Q 3) H30.7 豪雨以前での災害による 被害の有無		
SC 3) 避難の判断など			
SC 4) 災害時の情報源	Q 4) 警戒レベル4での避難意識		
SC 5) 5段階の警戒レベルについての 認知	Q 5) 居住地域についての知識		
SC 6) R1.6大雨（警戒レベル4・避難 勧告）での避難の有無	Q 6) 「空振り」現象への許容		
	Q 7) 自宅所持品		
SC 7) 警戒レベル4 発令での心境	Q 8) 家族形態		
	Q 9) 備蓄状況		
SC 8) 避難行動の呼びかけ	Q 10) 居住形態		
SC 9) H30.7 豪雨での避難の有無	Q 11) 土砂災害警戒区域		
SC 10) 適切な避難行動に必要なこと	Q 12) 避難等に配慮が必要な家族の有無		
SC 11) 災害発生時での重要要素	Q 13) あなたご自身について		
SC 12) 警戒レベルと避難意識	Q 14) あなたご自身のことについて		

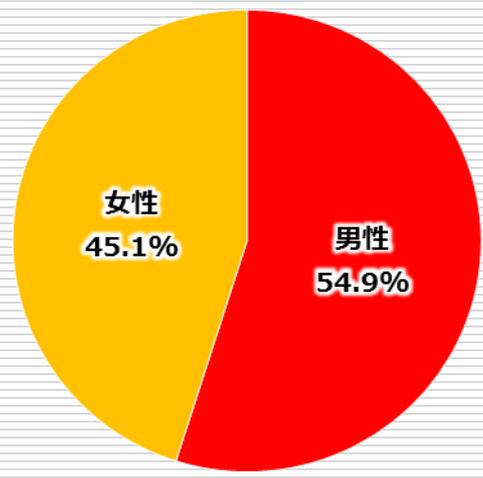
*Q2～Q14では、SC9で「避難した」「避難しなかった」と回答した人の中から、それぞれ約200名程度をランダムに抽出して回答していただきました。



防災マーケティング研究チーム

江戸克栄 [HBMS(教授)]
 上垣慎一 [HBMS(研究員)]
 川内英次 [HBMS(研究員)]
 小出隆仁 [HBMS/医療法人真慈会 真愛病院]
 高田禮榮 [HBMS/中電技術コンサルタント(株)]
 柘原 茂 [HBMS/広島市]
 藤本健二 [(株)サーベイリサーチセンター]

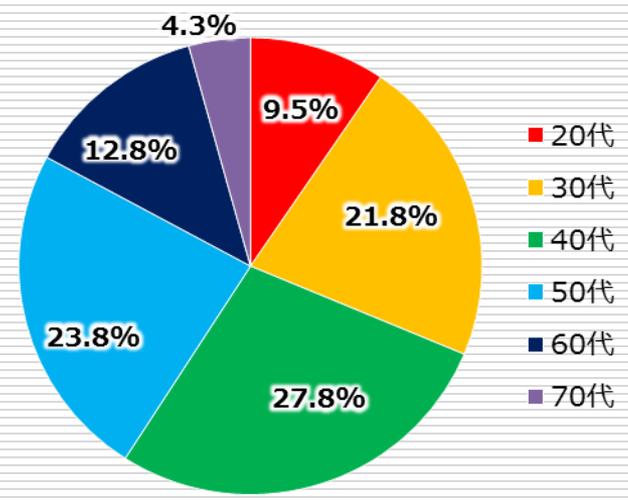
性別



■男性の方が女性より9.8ポイント多くなっています。

	男性	女性
全体		
	3,240	2,662
	54.9	45.1

年齢



■40代が27.8%と最も多く、次いで50代の23.8%となっています。（回答者の平均年齢は46.61歳です。）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均（歳）
全体							
	559	1,289	1,640	1,406	753	255	46.6
	9.5	21.8	27.8	23.8	12.8	4.3	

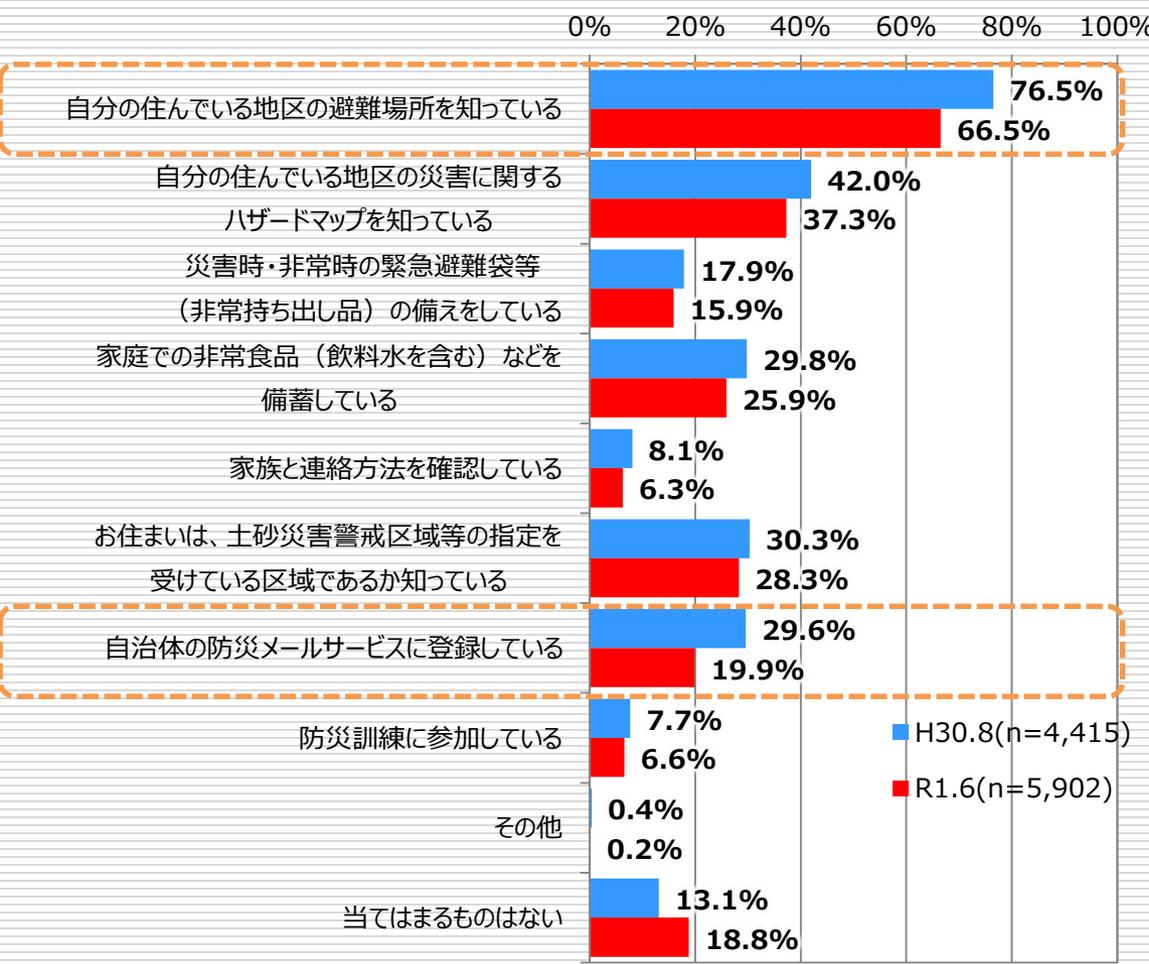
SC1) あなたのお住まいは？

■ 広島市が51.8%と最も多く、次いで福山市の13.8%、東広島市の6.5%となっています。



	全 体	割合
広島市	3,055	51.8
福山市	813	13.8
東広島市	384	6.5
呉市	370	6.3
安芸郡	279	4.7
廿日市市	269	4.6
尾道市	231	3.9
三原市	166	2.8
三次市	69	1.2
大竹市	50	0.8
府中市	44	0.7
竹原市	44	0.7
庄原市	33	0.6
山県郡	26	0.5
安芸高田市	24	0.4
江田島市	21	0.4
世羅郡世羅町	17	0.3
神石郡神石高原町	4	0.1
豊田郡大崎上島町	3	0.1

SC2) 災害（地震・大雨・台風等）に対して、あなたが日頃から知っているもの、準備していることなど該当するものをお答えください。
 （複数回答可）

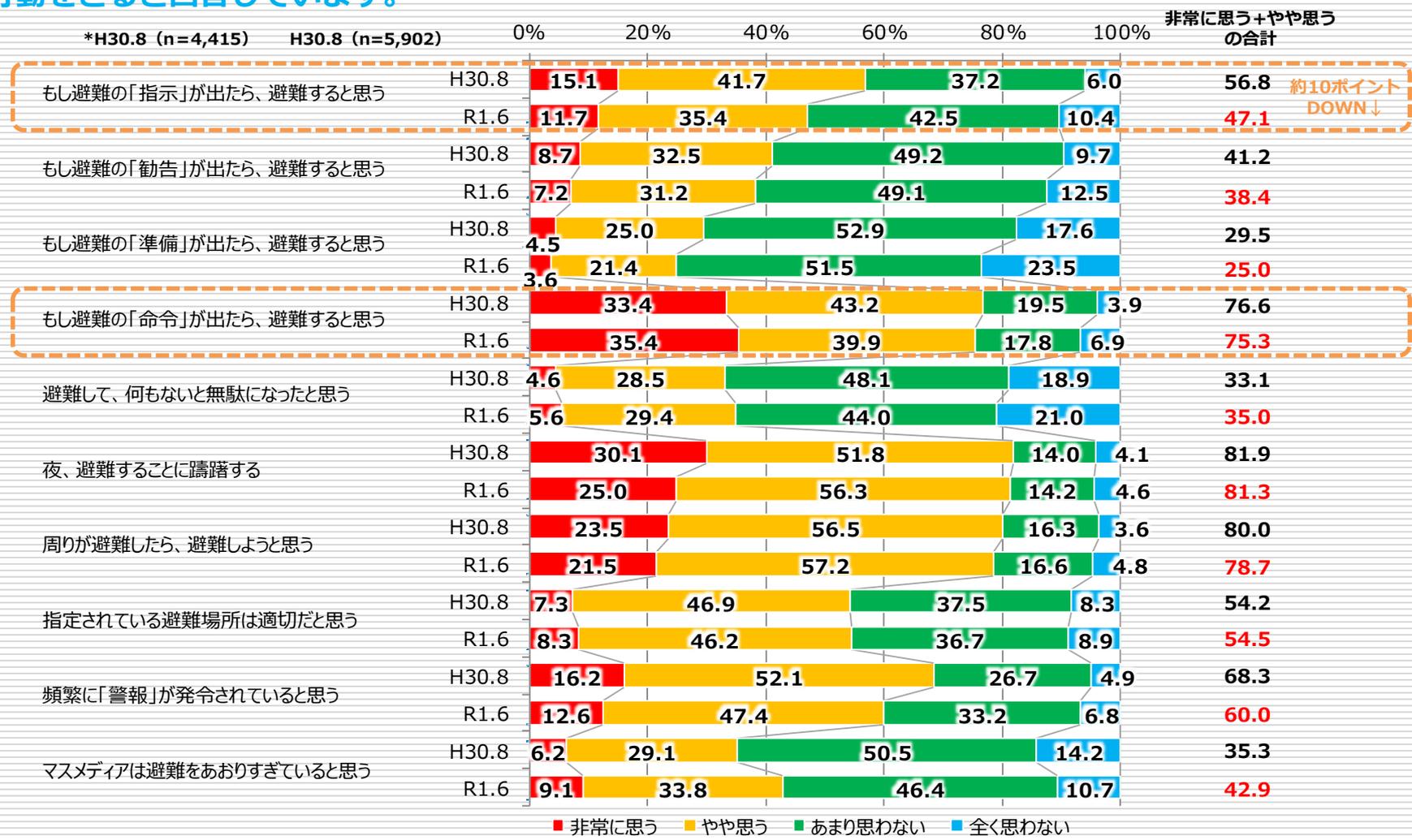


■ 前回調査（H30.8調査）の結果と比較すると、全体的に今回調査は前回調査の数値を下回る傾向にあります。

■ とりわけ、「自分の住んでいる地区の避難場所を知っている」「自治体の防災メールサービスに登録している」という回答は約10ポイント低下しています。

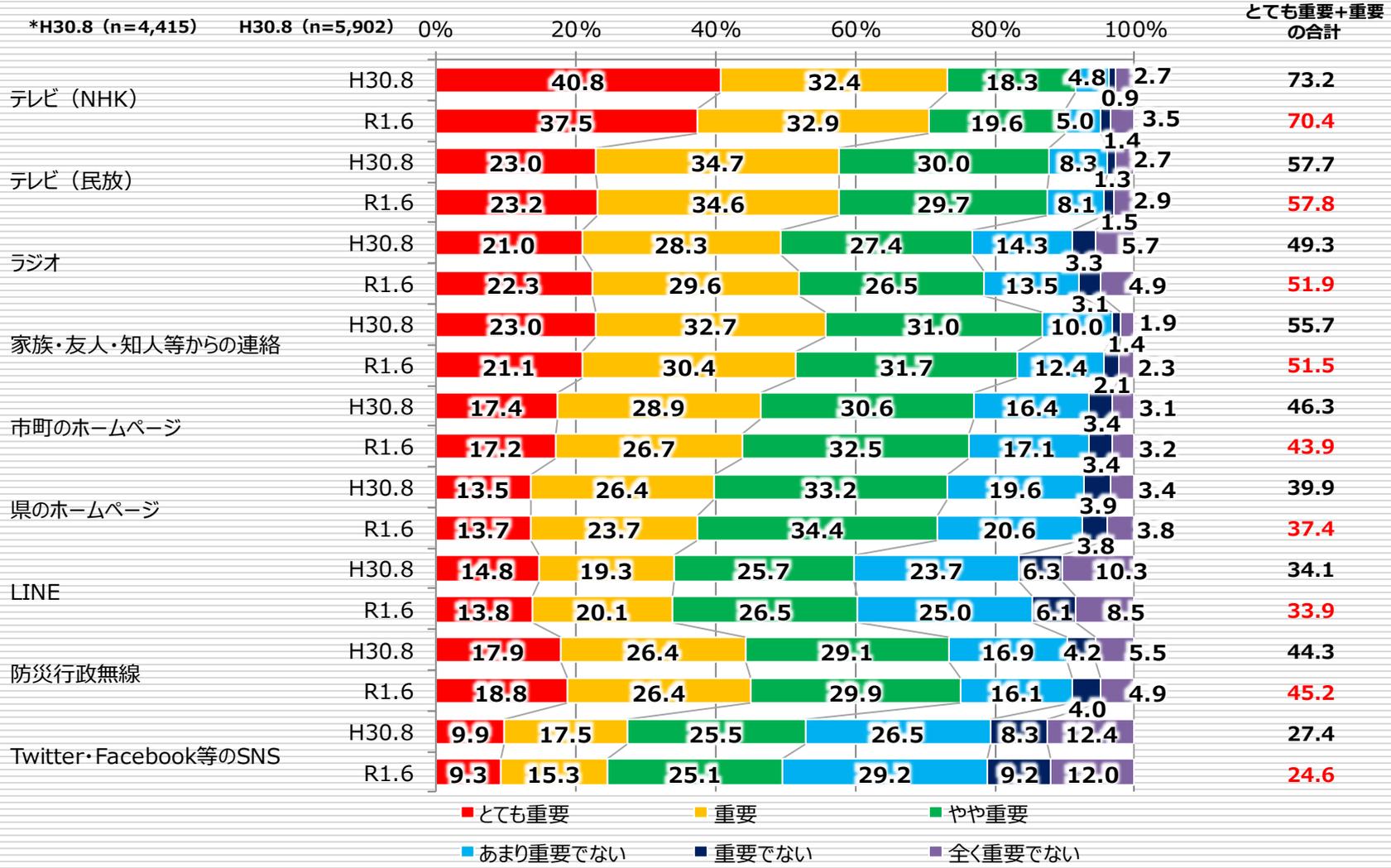
SC3) 避難に関するもので該当するものをそれぞれお答えください。

■避難行動に対する考え方について、前回の調査結果と比較したところ、「避難指示が出た場合」では、前回「非常に思う」「やや思う」の合計が56.8%であったのに対して、今回調査では47.1%と約10ポイント低下しています。また、「避難命令」は実在しないにもかかわらず、前回と変わらず高い水準で避難行動をとると回答しています。



SC4) 災害（地震、大雨、台風等）の時に、避難行動をとるときに次の情報源はどれくらい重要ですか（参考にしますか）？

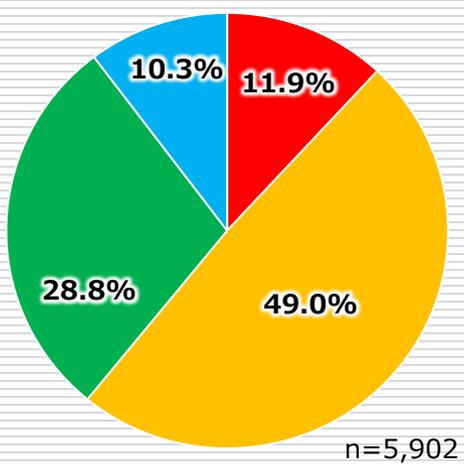
■避難行動をとるときの情報源については、前回と比較しても大きな変化は見られません。



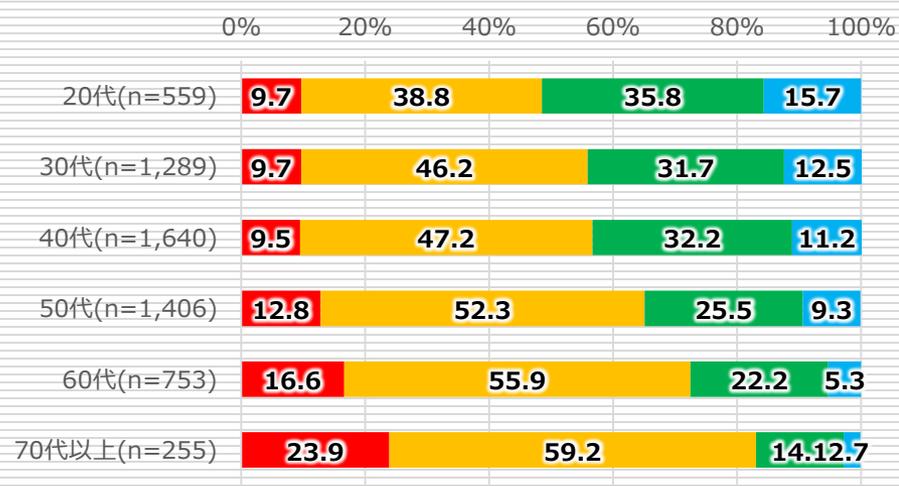
SC5) 平成31年3月、避難勧告等に関するガイドラインが改定され、地方公共団体は防災情報を5段階の警戒レベルにより提供することとなりました。あなたはこのことをご存知でしたか。

■「よく知っている（5段階の警戒レベルの意味を人に説明できる）」とする人が11.9%、「少し知っている（5段階の警戒レベルの意味がなんとなくわかる）」とする人が49.0%となっており、警戒レベルの用語をある程度理解している人が過半数となっています。

■年代別にみると、年代が上がるにつれて、警戒レベルの認知度・理解度があがっています。

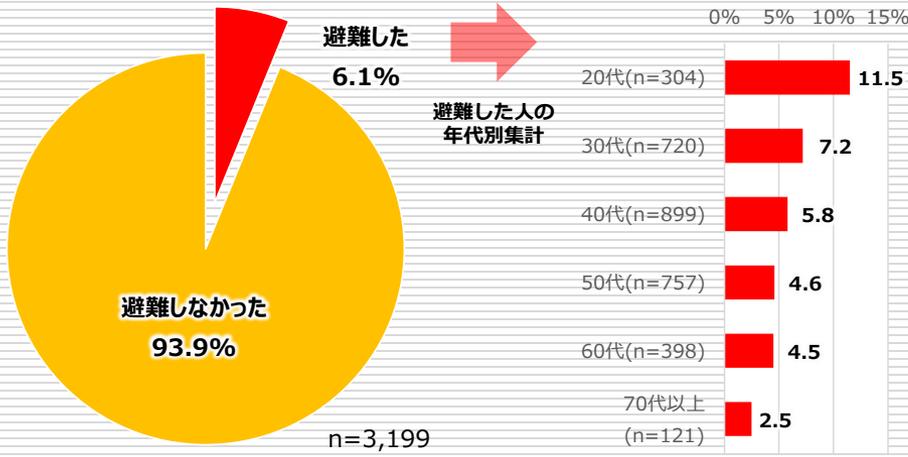


- よく知っている (5段階の警戒レベルの意味を人に説明できる)
- 少し知っている (5段階の警戒レベルの意味がなんとなくわかる)
- あまり知らない (5段階の警戒レベルの話を耳にしたことはある)
- まったく知らない (5段階の警戒レベルの話を聞いたこともない)



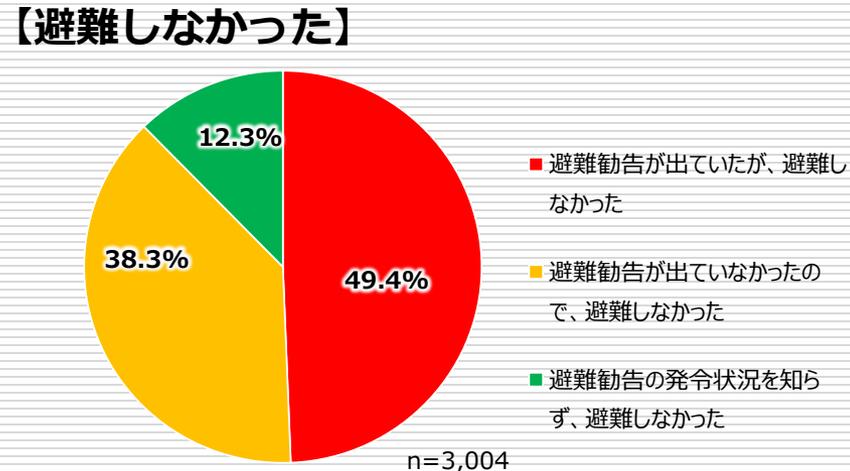
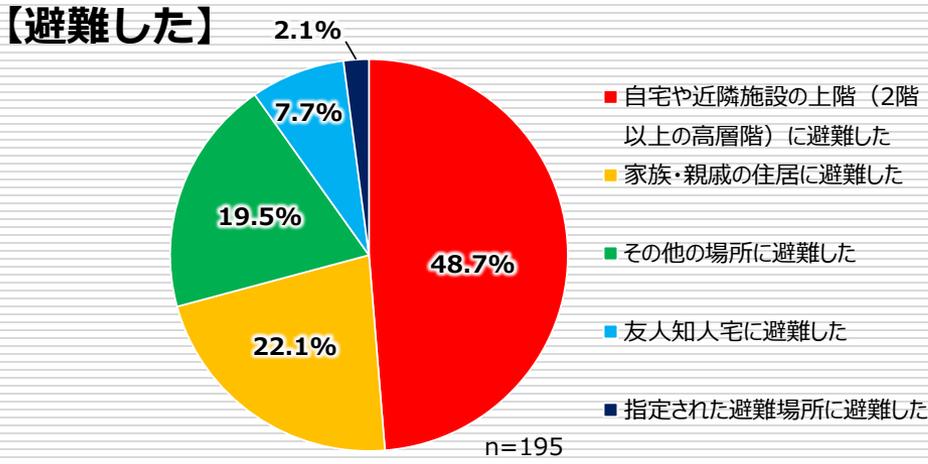
- よく知っている (5段階の警戒レベルの意味を人に説明できる)
- 少し知っている (5段階の警戒レベルの意味がなんとなくわかる)
- あまり知らない (5段階の警戒レベルの話を耳にしたことはある)
- まったく知らない (5段階の警戒レベルの話を聞いたこともない)

SC6) 令和元年6月7日(金)の6時~7時にかけて、大雨による土砂災害発生の危険性が高いため、広島県の一部の地域では、警戒レベル4・避難勧告が発令されました。あなたは避難しましたか。



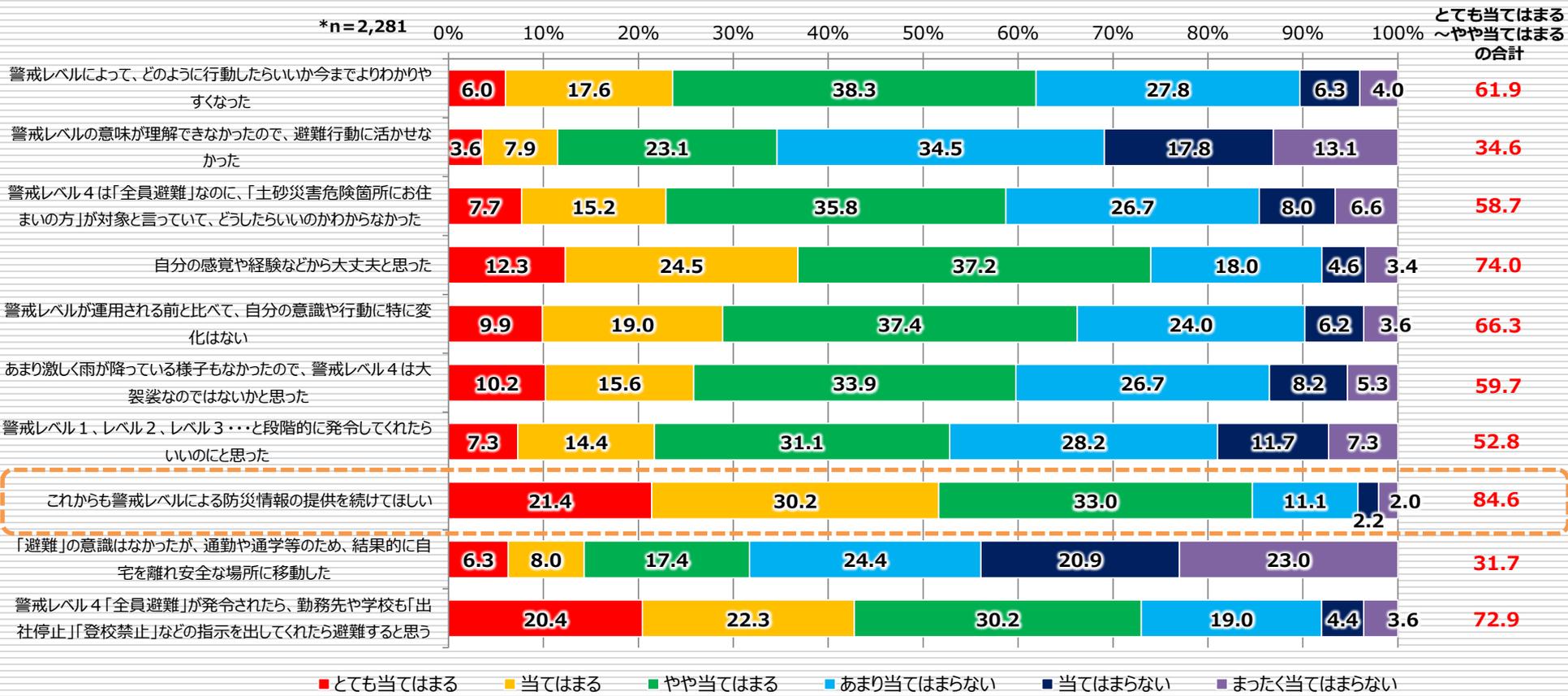
■ 6月7日大雨で、警戒レベル4が発令された4市町（広島市、海田町、熊野町、坂町）に居住する3,199人に、当日の避難行動について尋ねたところ、「避難しなかった」が93.9%と9割を超え、「避難した」は6.1%にとどまっています。また、年代が上がるにつれて避難した人の割合が下がっています。

■ 「避難した」と答えた人は、「自宅や近隣施設の上階（2階以上の高層階）に避難した」が最も多く、次いで「家族・親戚の住居に避難した」となっています。



SC7) 警戒レベル4が発令されたことに対するあなたの心境に最も近いものをお答えください。

■6月7日大雨で「避難した人」と、「避難勧告が出ていたが、避難しなかった」と回答した2,281人に対して、警戒レベル4が発令されたことに対する心境について尋ねたところ、「これからも警戒レベルによる防災情報の提供を続けてほしい」に当てはまる（「とても当てはまる」～「やや当てはまる」の合計）と回答した人が最も多く、84.6%となっています。

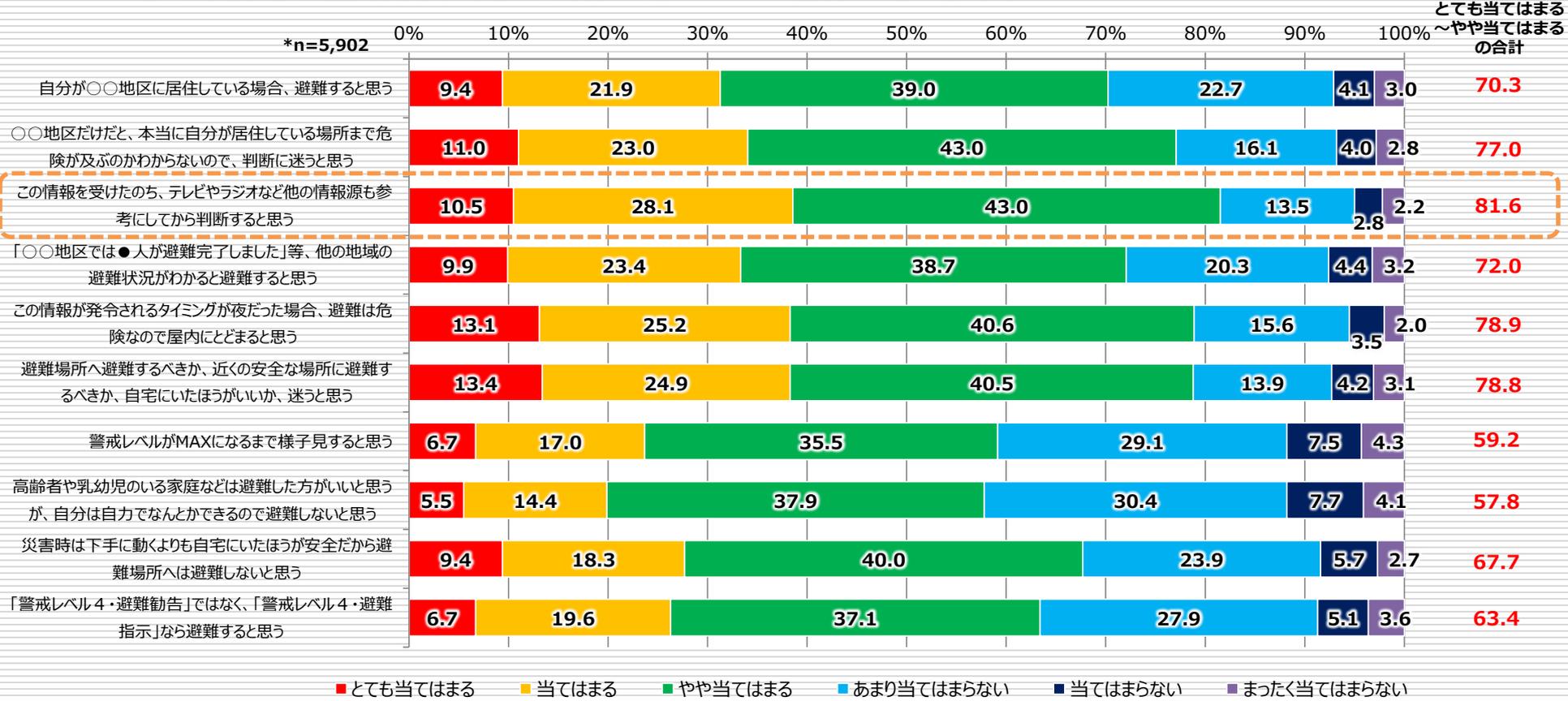


令和元年6月7日大雨における警戒レベル4 発令の避難意識と行動の調査 10

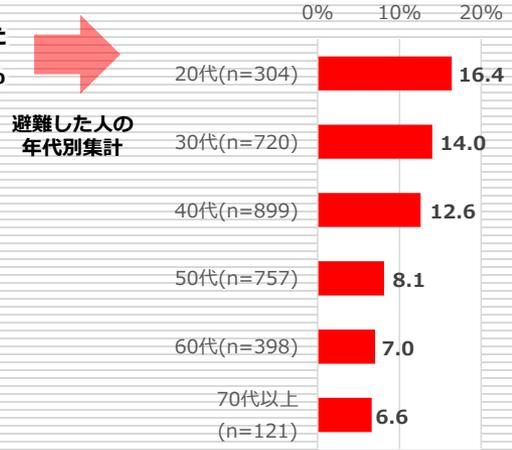
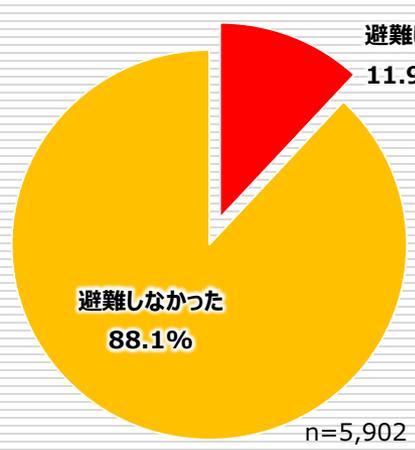
SC8) 次のような内容で避難行動の呼びかけがあったとき、あなたはどのように感じますか。それぞれお答えください。

<呼びかけ内容> 緊急放送です。〇〇地区で土砂災害に関する警戒レベル4、避難勧告を発令しました。〇〇地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。避難場所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所に避難するか、屋内の高いところに避難してください。

■避難行動の呼びかけについては、「この情報を受けたのち、テレビやラジオなど他の情報源も参考にしてから判断すると思う」に当てはまる（「とても当てはまる」～「やや当てはまる」の合計）と回答した人が最も多く、81.6%となっています。



SC9) あなたは、平成30年7月豪雨の際、避難しましたか。

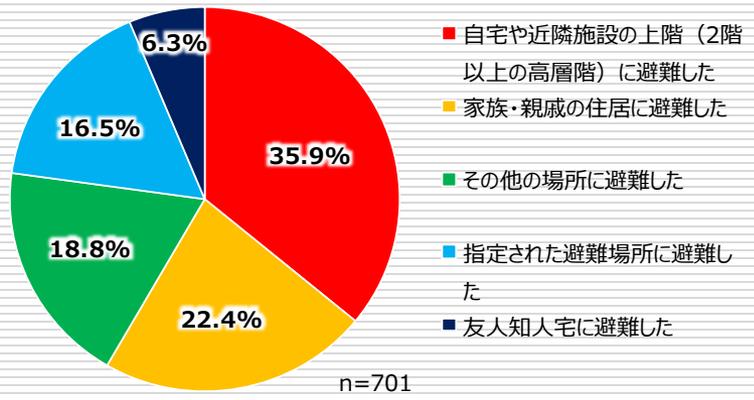


■ 「避難しなかった」が88.1%と9割弱となっています。「避難した」は11.9%にとどまっています。また、年代があがるにつれて避難した人の割合が下がっています。

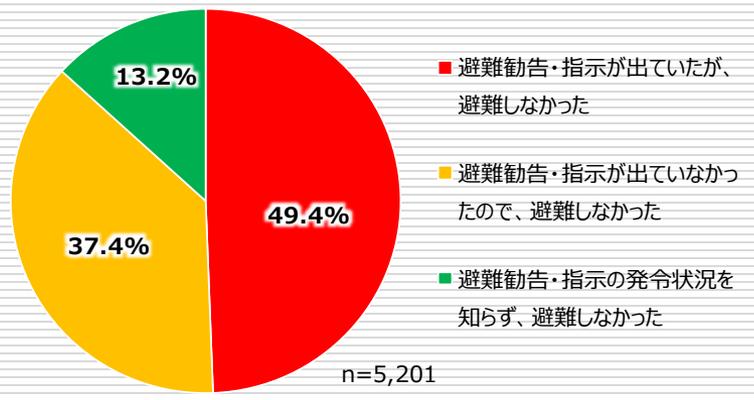
■ 「避難した」と答えた人は、「自宅や近隣施設の上階（2階以上の高層階）に避難した」が最も多く、次いで「家族・親戚の住居に避難した」となっています。

■ 「避難しなかった」と答えた人では、「避難勧告・指示が出ていたが、避難しなかった」が最も多く、次いで「避難勧告・指示が出ていなかったため、避難しなかった」となっています。

【避難した】

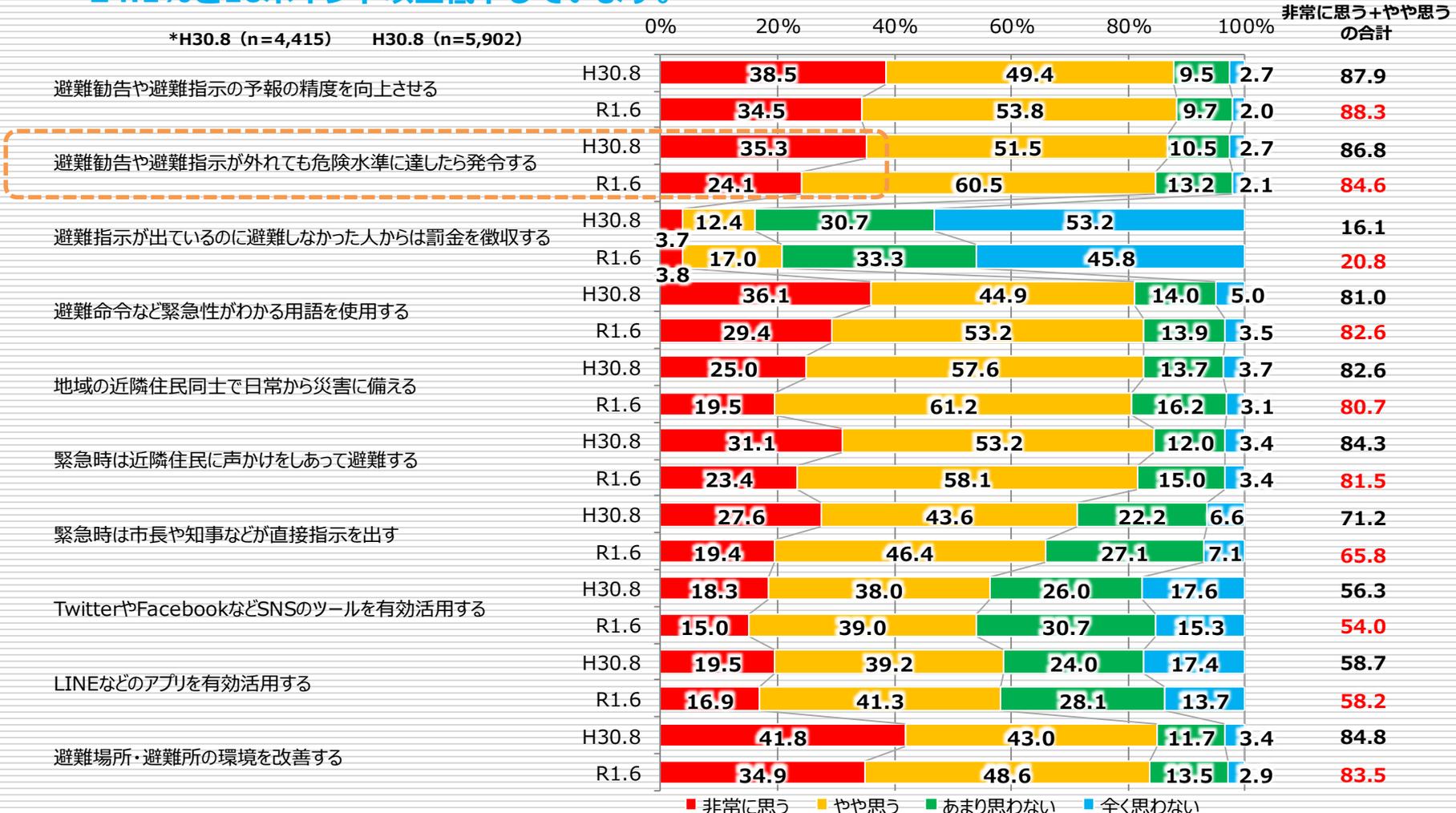


【避難しなかった】



SC10) 今後、災害が発生した際に、適切な避難行動をとるためにはどのようなことが必要と思いますか。

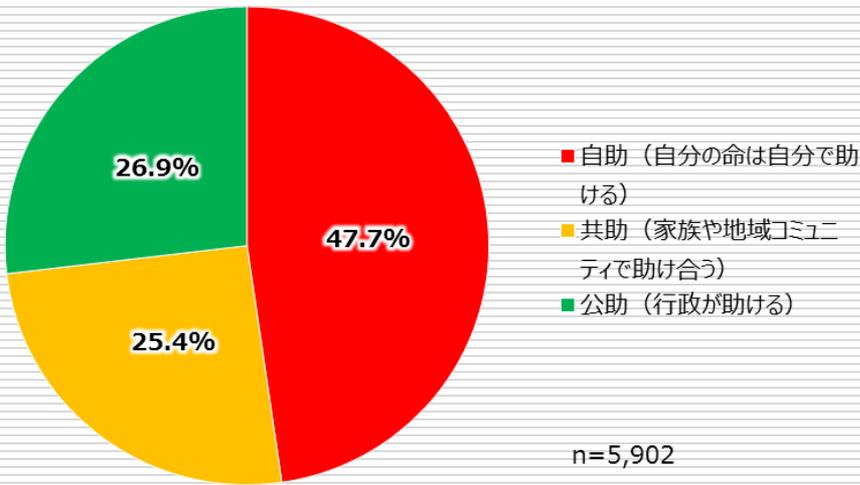
■ 避難行動を促進するために必要なことについて前回調査と比較すると、「避難勧告や避難指示が外れても危険水準に達したら発令する」の「非常に思う」は前回35.3%であったのに対して、今回は24.1%と10ポイント以上低下しています。



SC11) 災害が発生したとき、次の要素はそれぞれどの程度重要だと思いますか。全体を100%としたとき、重要度に応じて3つに振り分けてください。

■「自助」「共助」「公助」の3つの要素について、全体を100%としたときに重要度に応じて振り分けられました。その結果、「自助（自分の命は自分で助ける）」が47.7%と最も多く、次いで「公助（行政が助ける）」26.9%、「共助（家族や地域コミュニティで助け合う）」25.4%となっています。

■階級別にみると、自助意識は「50～75%未満」が最も多く38.3%、共助意識は「～25%未満」が最も多く48.6%、公助意識は「～25%未満」が最も多く49.7%となっています。

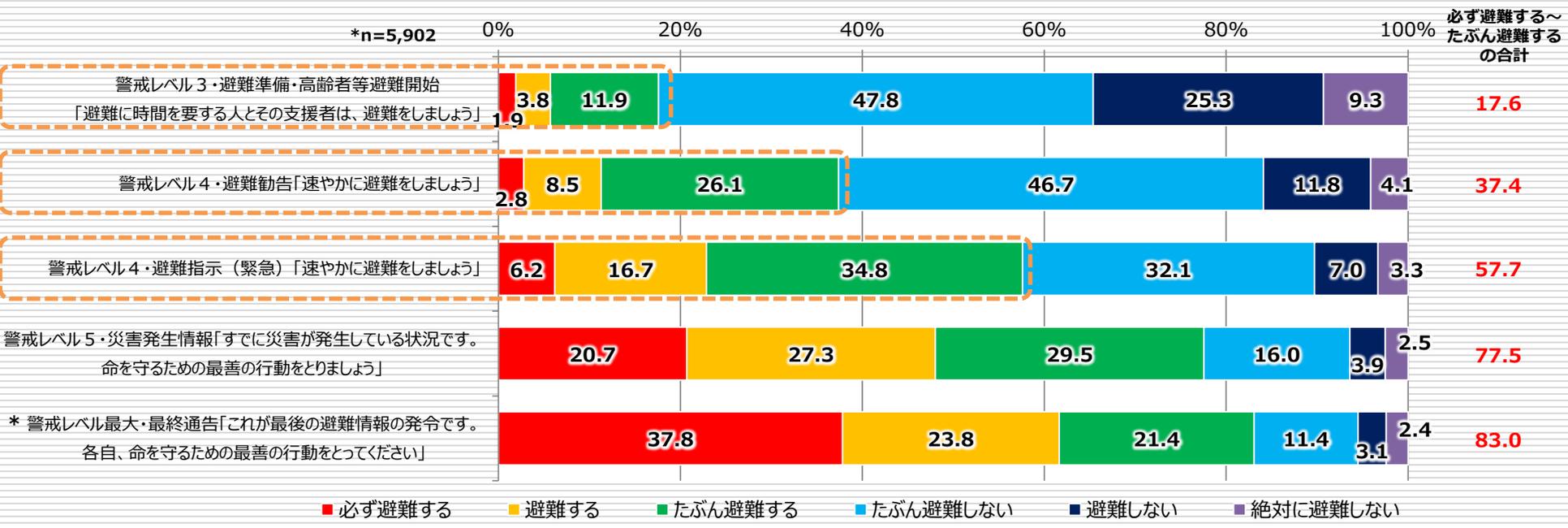


	回答者数	割合
自助意識～25%未満	916	15.5%
自助意識25～50%未満	1,826	30.9%
自助意識50～75%未満	2,262	38.3%
自助意識75%～	898	15.2%
共助意識～25%未満	2,868	48.6%
共助意識25～50%未満	2,426	41.1%
共助意識50～75%未満	537	9.1%
共助意識75%～	71	1.2%
公助意識～25%未満	2,933	49.7%
公助意識25～50%未満	1,990	33.7%
公助意識50～75%未満	818	13.9%
公助意識75%～	161	2.7%

SC12) あなたは、次にあなたのお住まいの地域で次の情報が発令されたら、避難すると思いますか。

■ お住まいの地域でどのくらいの警戒レベルが発令されたら避難するかについては、警戒レベルが上がるにつれて「避難する」との回答割合も高くなっています。

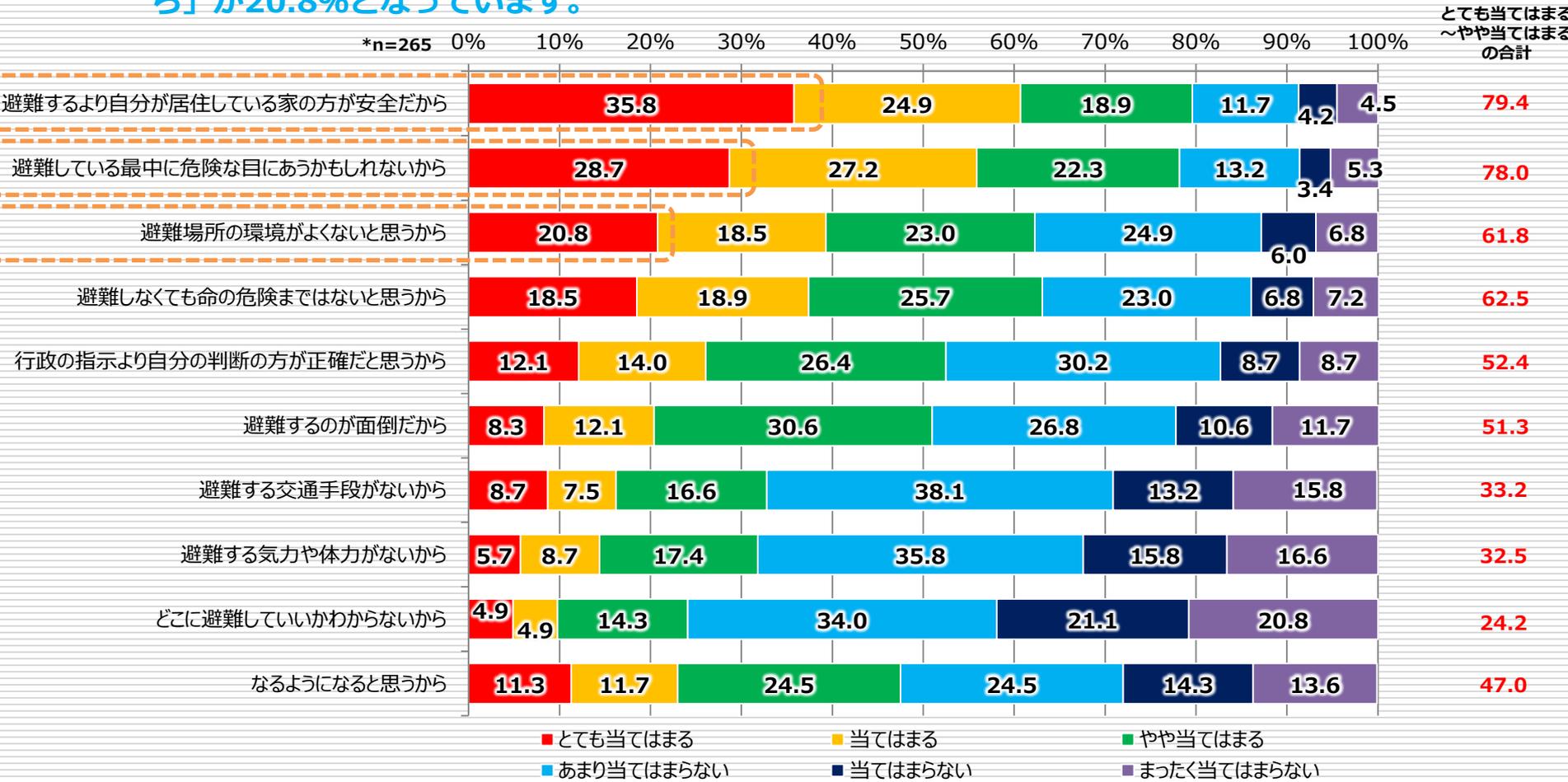
■ 警戒レベル3では17.6%が「避難する（「必ず避難する」～「たぶん避難する」の合計）」と回答しており、警戒レベル4・避難勧告では37.4%が「避難する」と回答しています。同じ警戒レベル4でも、警戒レベル4・避難指示（緊急）では57.7%が「避難する」と回答しており、勧告と指示では差が見られます。



* 「警戒レベル最大・最終通告」は、当研究チームが思考実験的に調査項目に取り入れたものであり、現実には存在しません

Q1) あなたが、「避難しない」と回答したのはなぜですか。

■SC9平成30年7月豪雨で「避難しなかった」と回答し、かつ、SC12ですべての警戒レベルの発令に対して「避難しない（「たぶん避難しない」～「絶対に避難しない」のいずれか）」と回答した265人に対して、避難しない理由を尋ねたところ、「避難するより自分が居住している家の方が安全だから」が最も多く、35.8%が「とても当てはまる」となっています。次いで「避難している最中に危険な目にあうかもしれないから」が28.7%、「避難場所の環境がよくないと思うから」が20.8%となっています。

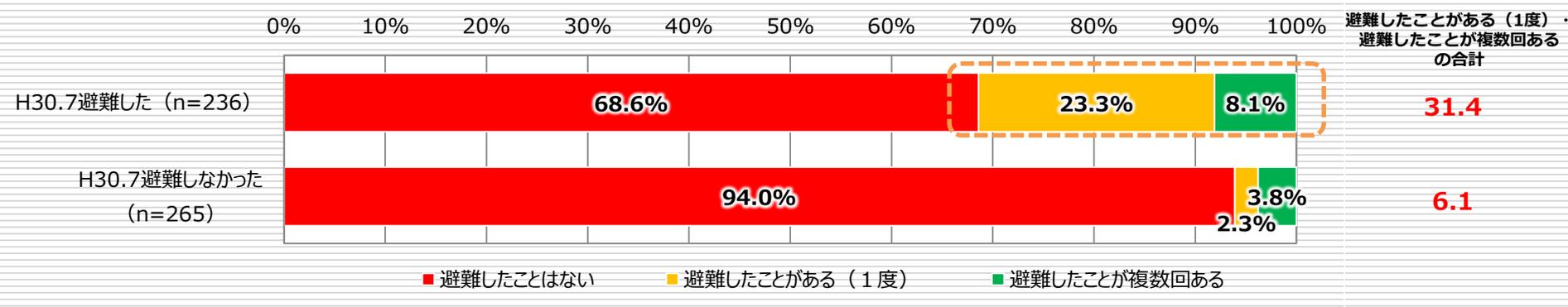


Q 2) あなたは、平成30年7月豪雨以前に、自然災害によりご自宅以外の場所へ避難したことがありますか。

■平成30年7月豪雨で避難した人は、それ以前に避難した経験がある人が多く、1度でも「避難したことがある」人が31.4%となっています。

■一方で、平成30年7月豪雨で避難しなかった人は、それ以前に避難経験がある人は少なく、1度でも「避難したことがある」人はわずかに6.1%となっています。

■このことから、避難経験の有無が避難行動に何らかの影響を及ぼしていることが推察されます。



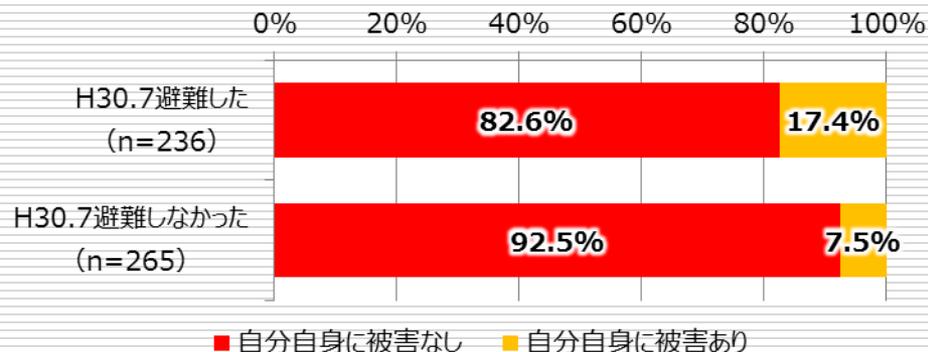
Q3) あなたは、平成30年7月豪雨以前に、自然災害によりご自身や住居に被害を受けたことがありますか。あなたご自身と、あなたの身近な人（親戚や別居家族）についてお答えください。（複数回答可）

■平成30年7月豪雨で避難した人は、自分自身または身近な人に被害経験がある人の割合が高くなっており、自分自身に被害があった人が17.4%、身近な人に被害があった人が23.3%となっています。

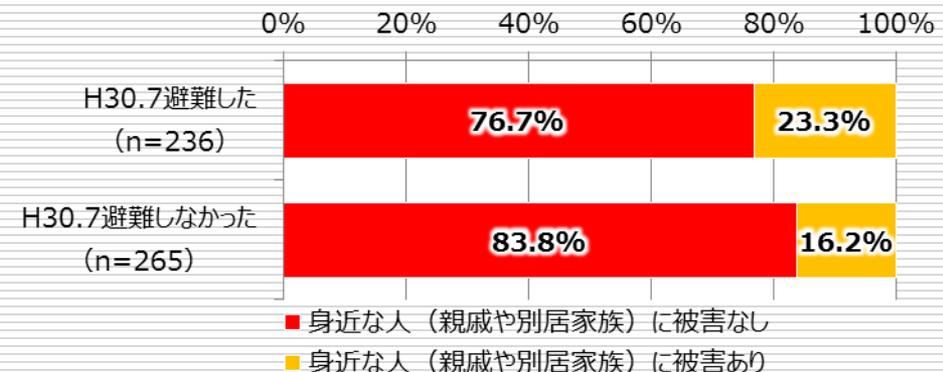
■一方で、平成30年7月豪雨で避難しなかった人は、自分自身・身近な人ともに、7月豪雨以前に被害を受けた経験がある人の割合が低くなっています。

■このことから、被害経験の有無が避難行動に何らかの影響を及ぼしていることが推察されます。

【自分自身に被害があったか】



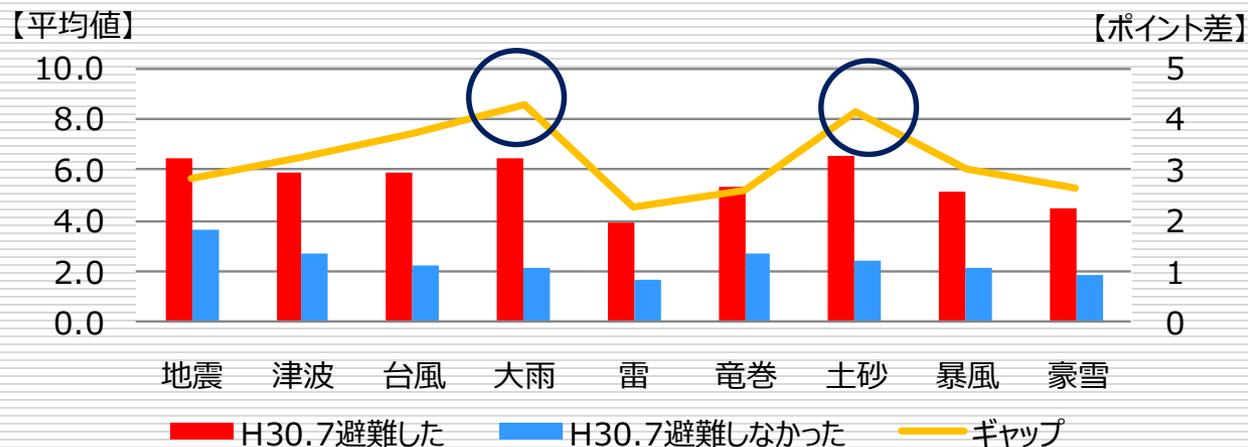
【身近な人に被害があったか】



Q4) 次の自然災害が発生し、あなたの居住する地域に警戒レベル4以上（全員避難）が発令されたら、あなたは避難すると思いますか。

■地域に警戒レベル4以上が発令された時の避難意識について、「0点（絶対に避難しない）～10点（絶対に避難する）」の11段階で評価してもらいました。平均値でみると、平成30年7月豪雨で避難した人と避難しなかった人では、いずれの災害に対しても大きな得点差があります。

■なかでも、ポイント差が大きいのは「大雨」「土砂」の2つで、避難しなかった人は、避難した人に比べて、大雨と土砂の災害の影響を小さく見積る傾向があることが推察されます。

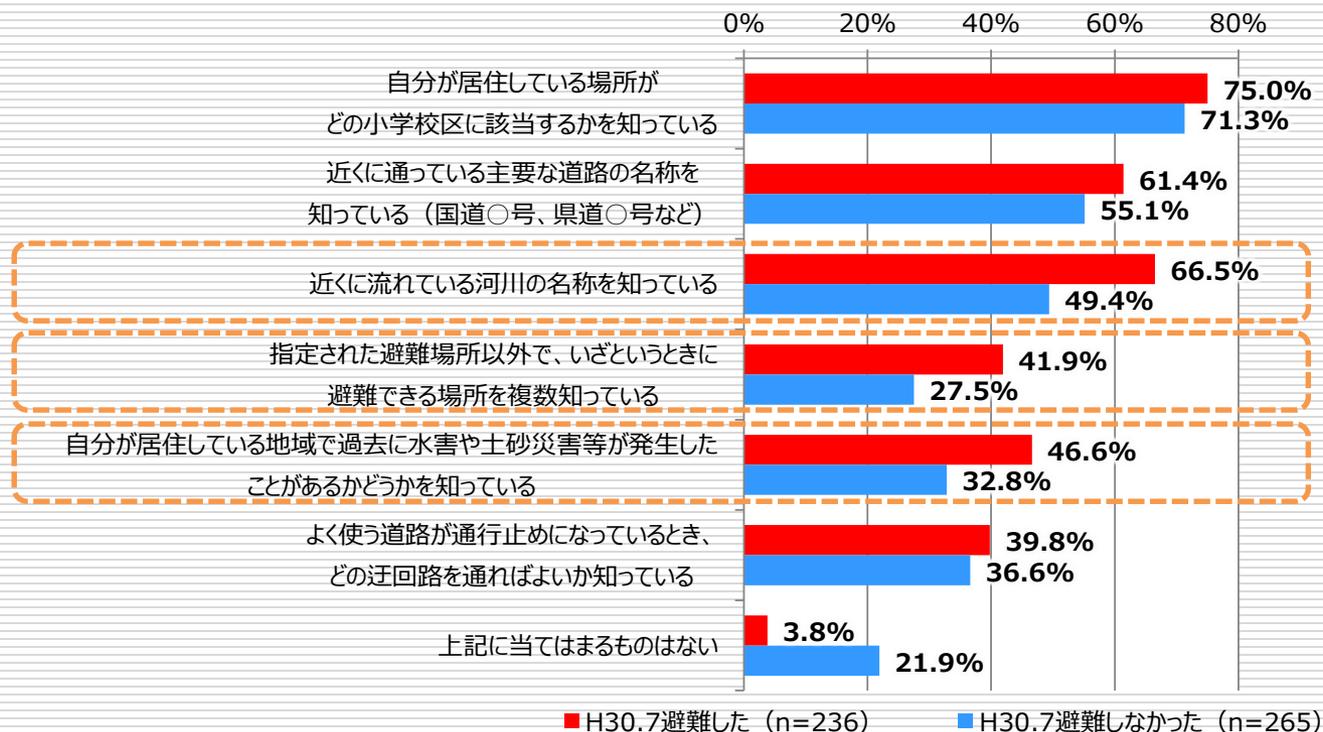


	全 体	地 震	津 波	台 風	大 雨	雷	竜 巻	土 砂	暴 風	豪 雪
H30.7避難した	236	6.48	5.90	5.9	6.43	3.89	5.28	6.52	5.14	4.51
H30.7避難しなかった	265	3.65	2.66	2.21	2.15	1.63	2.67	2.37	2.11	1.87
ポイント差	-	2.83	3.24	3.69	4.28	2.26	2.61	4.15	3.03	2.64

Q5) あなたは、ご自分の居住している地域のことをどのくらい知っていますか。(複数回答可)

■平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、自分が居住している地域のことをよく知っている傾向があります。

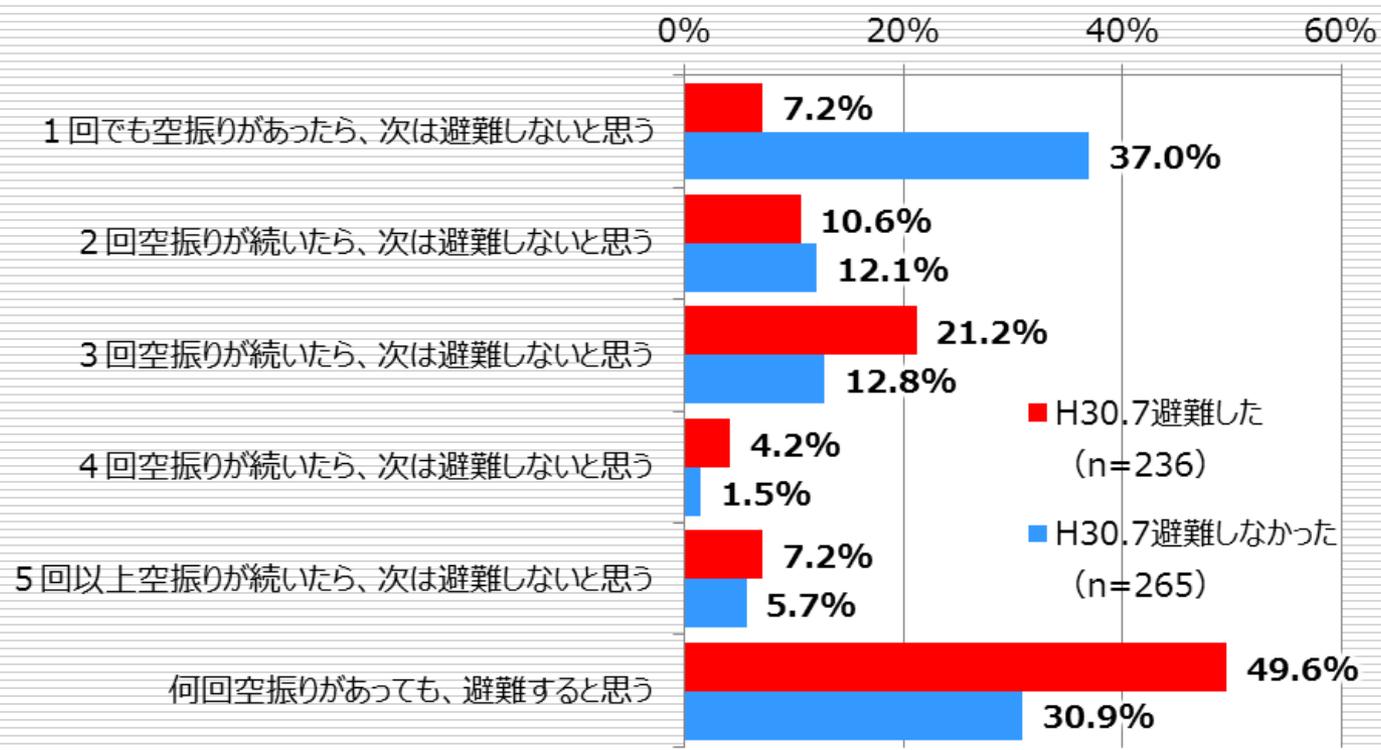
■「自分が居住している場所がどの小学校区に該当するかを知っている」では、避難した人・避難しなかった人ともに7割を超えており、大きな差は見られませんが、「近くに流れている河川の名前を知っている」「指定された避難場所以外で、いざというときに避難できる場所を複数知っている」「過去に水害や土砂災害等が発生したことがあるかどうかを知っている」などの項目で10ポイント以上の差が見られます。



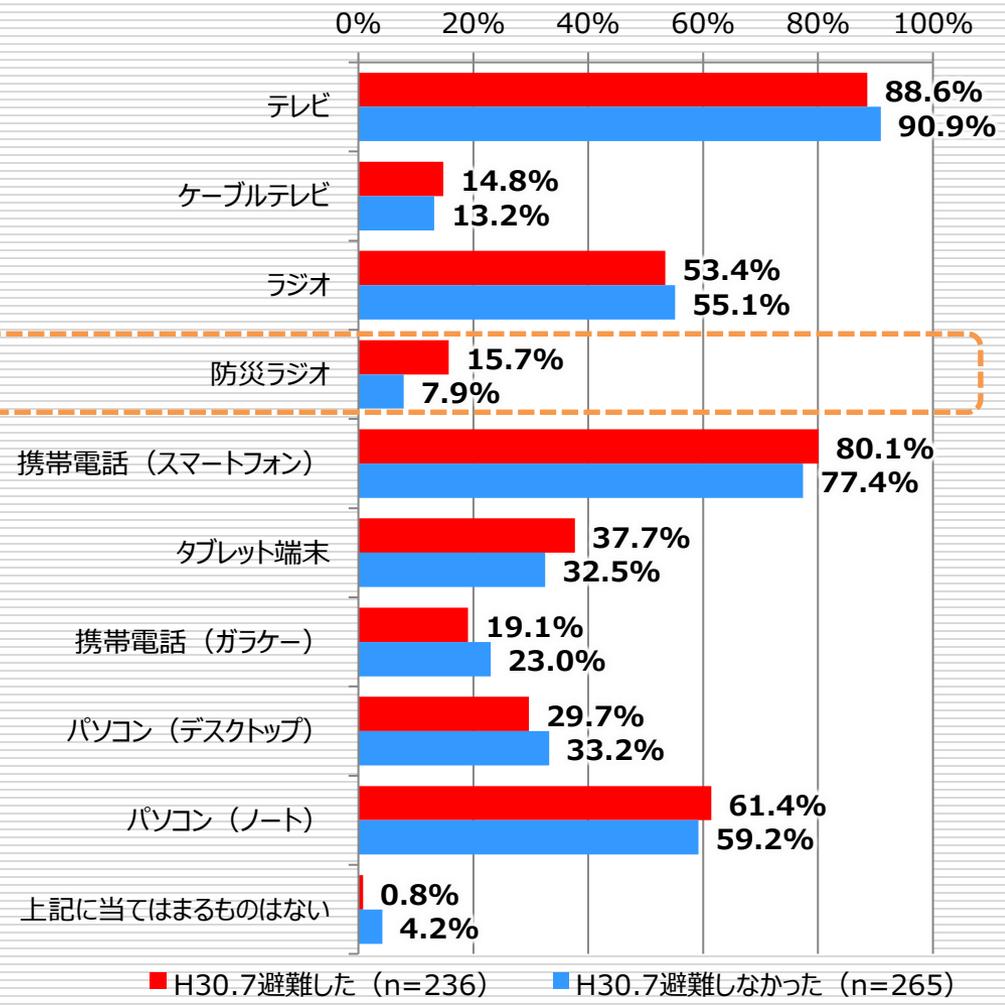
Q6) 「空振り」現象について、何回目までなら許容できるかをお答えください。

■「空振り」現象の許容範囲については、平成30年7月豪雨で避難しなかった人の37.0%が「1回でも空振りがあったら、次は避難しないと思う」と回答しているのに対して、避難した人は、7.2%となっています。

■一方で、避難した人の約半数が「何回空振りがあっても、避難すると思う」と回答しています。避難しなかった人は、30.9%にとどまっています。



Q7) あなたのご自宅には以下のものがありますか。(複数回答可)



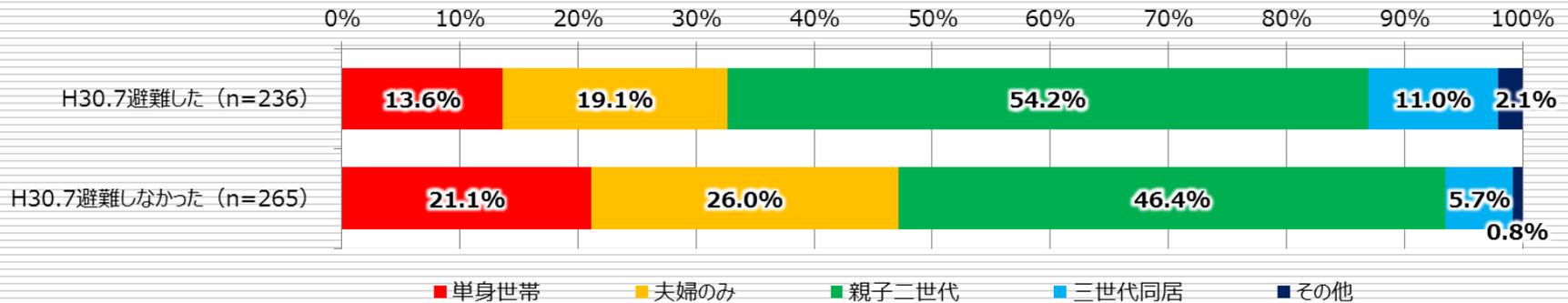
■ 自宅の持ち物については、平成30年7月豪雨で避難した人と避難しなかった人で大きな差は見られません。利用可能な情報媒体に大きな差はなかったものと推察されます。

■ 唯一、防災ラジオについては、避難した人の所持率は15.7%であるのに対し、避難しなかった人の所持率は7.9%と僅かな差が見られます。

Q 8) あなたの家族形態についてお答えください。

■ 家族形態については、平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、「親子二世帯」「三世代同居」の割合が高くなっています。

■ 一方で、避難しなかった人は、避難した人に比べて、「単身世帯」「夫婦のみ」の割合が高くなっています。

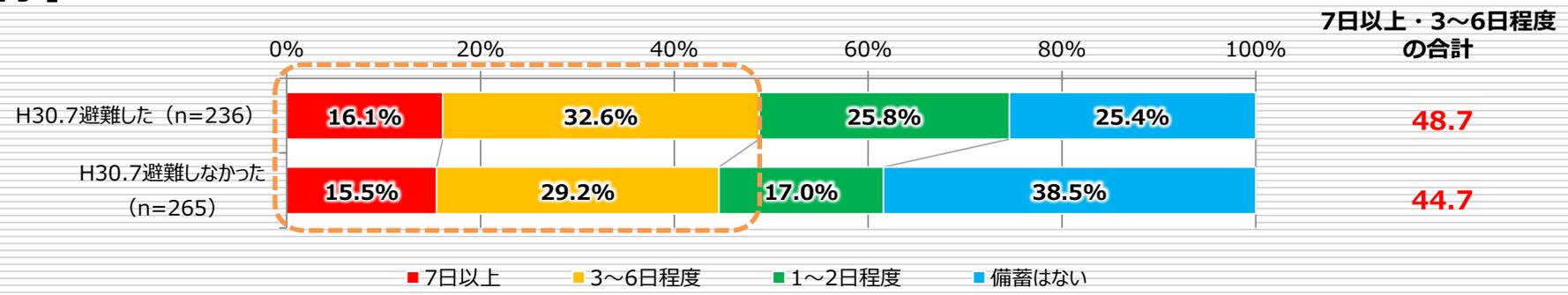


Q9) あなたのご家庭の備蓄状況についてお答えください。

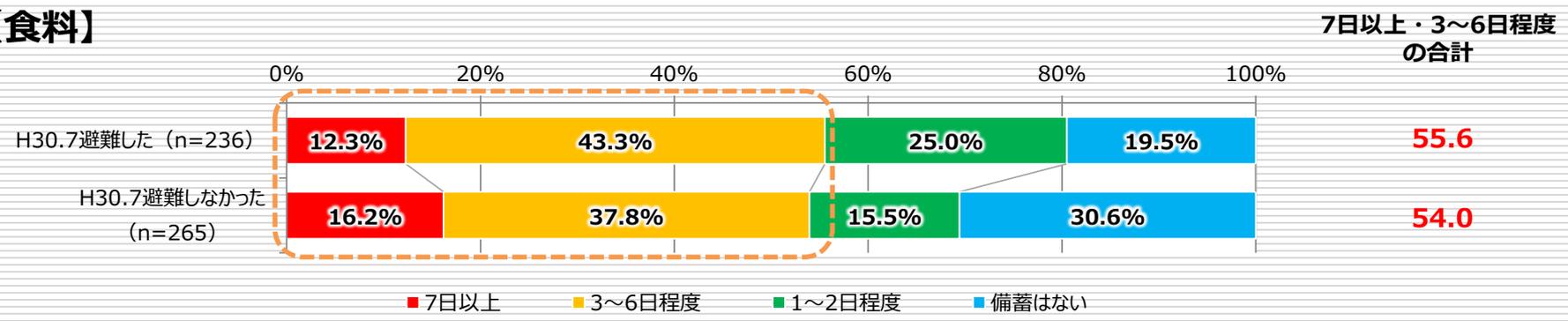
■ 備蓄状況についてみると、平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、水、食料ともに備蓄がある人の割合が高くなっています。

■ しかしながら、一般的に災害時に必要とされる「3日以上以上の備蓄」の観点でみると、避難した人でも、水を3日以上備蓄している人は48.7%、食料を3日以上備蓄している人は55.6%にとどまっています。

【水】



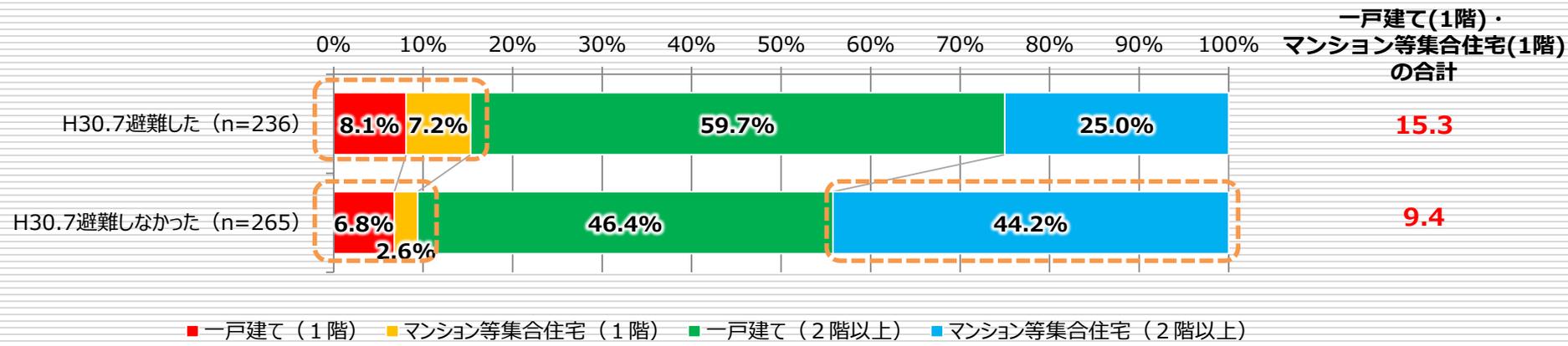
【食料】



Q10) あなたのお住まいについてお答えください。

■居住環境については、平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、1階に居住している人の割合が高くなっています。(一戸建て、マンション等集合住宅あわせて、避難した人は15.3%、避難しなかった人は9.4%)

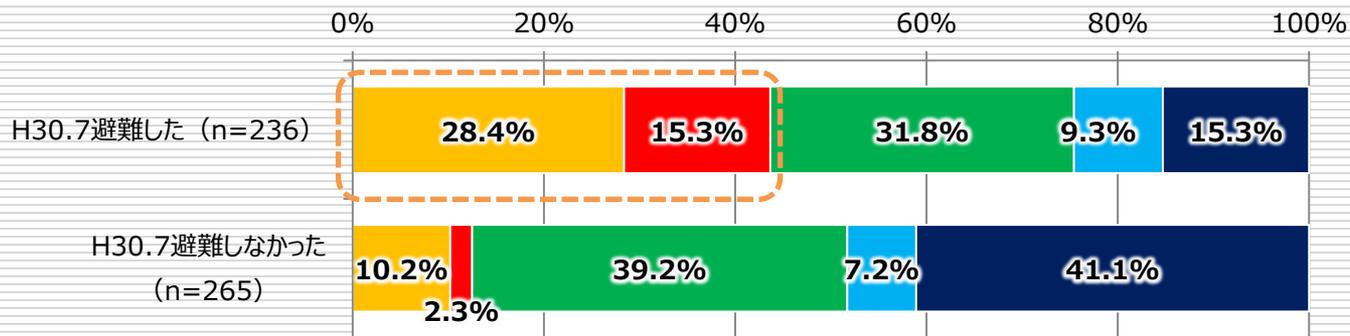
■避難しなかった人は、マンション等集合住宅の2階以上に居住している割合が44.2%となっていることから、避難しなかった人の中には、「水平避難するよりも、自宅待機したほうが安全」と判断した人もいた可能性が考えられます。



Q 1 1) あなたのお住まいの地域は、土砂災害警戒区域に含まれていますか。

■平成30年7月で避難した人は、居住している地域が土砂災害警戒区域に含まれている割合が高く、レッド・イエローあわせて43.7%となっています。

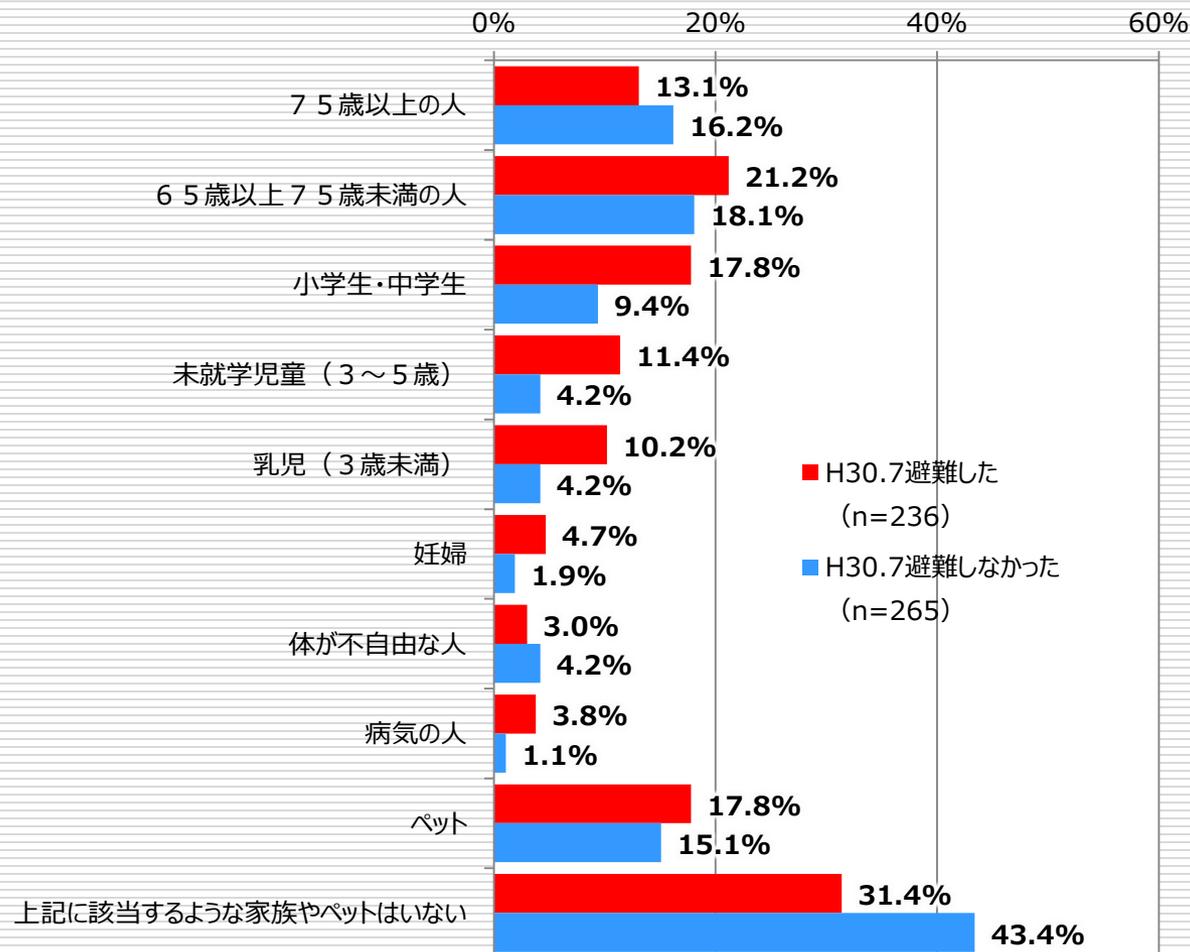
■避難しなかった人の中でも、イエローに含まれている人が10.2%、レッドに含まれている人が2.3%います。また、「わからない（調べようとしたことがない）」人も41.1%となっており、土砂災害警戒区域に関する知識の普及啓発の必要性がうかがえます。



- 土砂災害警戒区域 (黄色イエロー) に含まれている
- 土砂災害特別警戒区域 (赤色レッド) に含まれている
- 土砂災害警戒区域, 又は土砂災害特別警戒区域のいずれにも含まれていない
- わからない (調べようとしたが、情報が得られなかった)
- わからない (調べようとしたことがない)

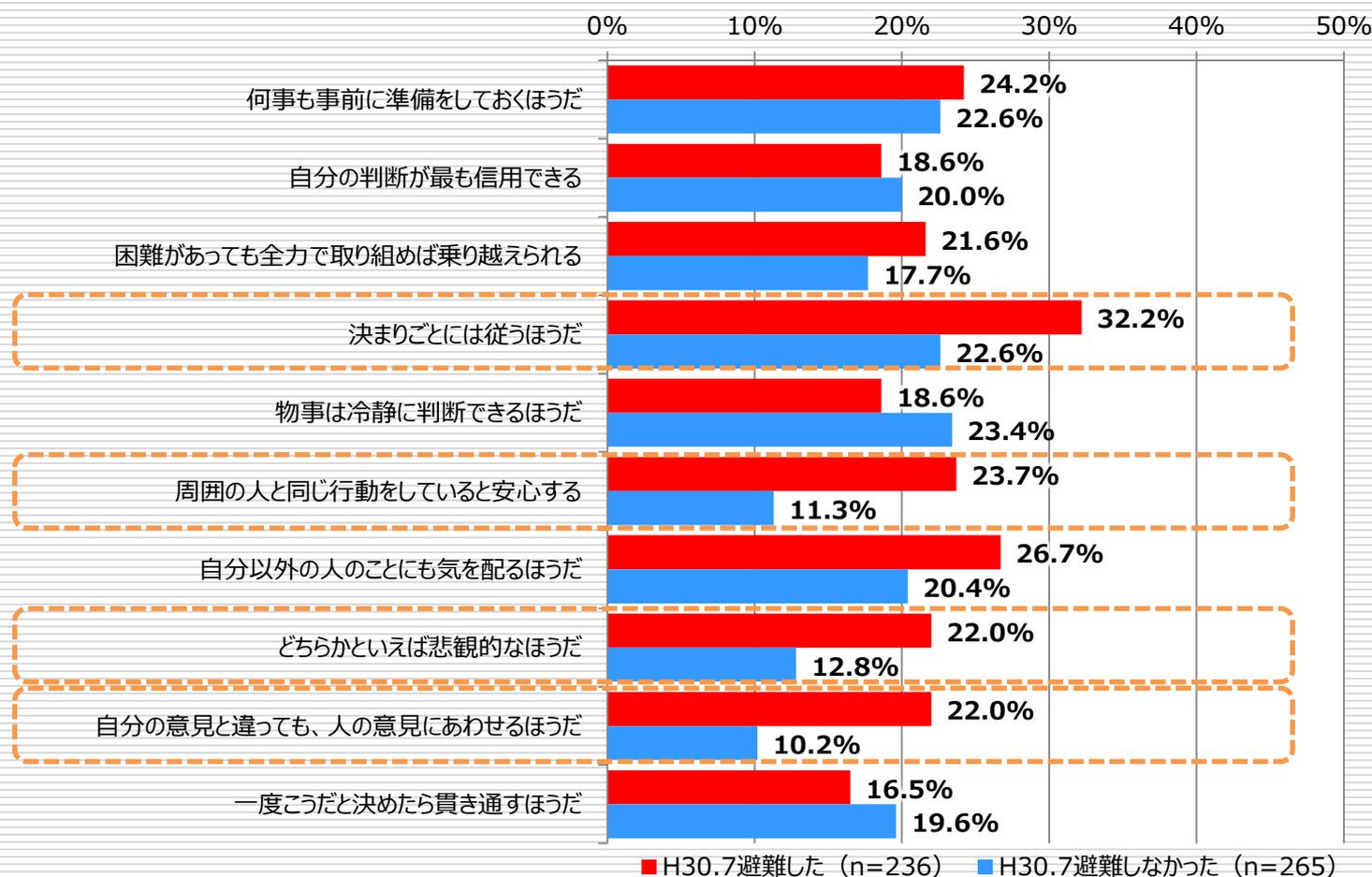
Q12) あなたの同居している家族に以下に当てはまる人がいますか。(複数回答可)

■平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、「避難に配慮を要する家族やペット」がいる人の割合が高くなっています。



Q 1 3) あなたご自身についてお答えください。

■平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、「決まりごとには従うほうだ」「周囲の人と同じ行動をしていると安心する」「どちらかといえば悲観的なほうだ」「自分の意見と違って、人の意見にあわせるほうだ」の項目において、「当てはまる（非常に当てはまる+当てはまる）」と回答する割合が約10ポイント高くなっています。



Q14) あなたご自身についてお答えください。

■平成30年7月豪雨で避難した人は、避難しなかった人に比べて、「悩みごとを相談できる友人・知人がいる」「地域の行事に参加している」「災害に備えて、ハザードマップ等で自宅周辺の安全性を確認している」の項目において、「当てはまる（非常に当てはまる+当てはまる）」と回答する割合が約10ポイント高くなっています。

